

ミリアン
密陽市訪問団を歓迎

国際姉妹都市である韓国密陽市からの訪問団が5年ぶりに安来市を訪れ、10月21日には歓迎会を開催し、歓迎のあいさつや記念品の交換をしました。

密陽市のイ・ジョンファン行政局長ら6人の訪問団は、22日に戦国尼子フェスティバルや足立美術館、和鋼博物館などを視察し、23日には市役所を訪問しました。



◀交流拡大に向けた貴重な時間としたいと歓迎のあいさつを述べました。



紹介します
出来事を
まちな話題や

たうん
とぴっくす
TOWN TOPICS

今月の1枚



和鋼博物館で開館30周年記念企画展「ダンサンが守り育てた安来の芸術文化」が開催されました。文化発展に大きく関わった実業家たち「ダンサン(旦那さん)」が愛した美術工芸品が展示され、豊かな芸術文化を感じられました。
10月22日：和鋼博物館



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



再び集結、尼子の縁

5年に1度開催される「尼子氏」をテーマとした大イベントの「尼子一族全国大集会及び戦国尼子フェスティバル」。10月22日には三日月公園付近の飯梨川河川敷をメインステージに、トークショーや演奏、特産市、武者行列と、城下町一帯が盛り上がりました。

武者行列では、尼子十勇士や鉄砲隊、^{なぎなた} 薙刀隊、忍者隊といった尼子の武者隊をはじめとして、松江武者応援隊など全国各地からおおよそ230人が集結。手作りの^{よろい} 鎧兜を身につけ、^{よろい} 広瀬小学校校庭から飯梨川河川敷まで約1.2kmを30分かかけ練り歩きました。

子ども武者隊に参加した福田つむぎさんと柴田こはるさんは「着ているのはおばあちゃんが作ってくれた衣装で、すごくかっこいいと思います。特に兜の飾り(前立て)が気に入っていて、武者行列と一緒に歩くのが楽しみです」と話していました。

①～③武者行列の様子。昔ながらの家が多く残る広瀬の町並みを練り歩きました。④トークショーでは「聖謀 尼子経久伝」の作者である武内涼さん(右)と田中市長(左)が、尼子経久の成した偉業や月山富田城跡の観光資源としての利用について語りました。





秋の夜長を満喫

▲オープニングでは大正琴の伴奏で広瀬小学校の児童が「山中鹿介の歌」を合唱しました。

10月7日の夜、「月山富田城月見の宴」が、月山富田城の城主を務めた毛利元秋の菩提寺である宗松寺（広瀬町広瀬）で開催されました。20回目の節目となる今回は、琴の生演奏が流れる茶室が設けられ、本堂では山中鹿介を題材にした合唱や詩吟、講演などに100人を超える来場者が耳を傾けました。

主催した広瀬町文化協会の鈴木恵美子会長は、「4年ぶりの開催であったが、多くの方に来場していただきありがたかった。いい月見の宴だったと満足していただけたら幸いです」と話しました。

10月5日に吉田国有林で「ふれあい森林教室」が開催され、島根県森林管理署職員の指導の下、南小学校5年生と吉田寿会と一緒に植樹や下刈り（苗木周辺の雑草などを刈る作業）を行いました。ふれあい森林教室は、森林での体験学習を通じ、森林や自然について考えたり、世代間の交流を深めたりすることを目的としています。

初めて植樹を体験した南小学校の永江初音さんは「花を植えるのと違い難しかったです。支えをうまく固定でき嬉しかったです」と話していました。



森林に学び親しむ

▲モミジと桜の植樹を行う子どもたち。アドバイスをもらいながら作業しました。

秋晴れのもと健脚を競う

10月22日に「やすぎランニングフェスティバル2023」が中海ふれあい公園とその周辺で開催されました。昨年はコロナ禍もあり山陰在住者に限定しての開催でしたが、今年は全国から272人のランナーが参加。2km、3km、5km、10kmの4つのコースに分かれて疾走しました。

5kmコースで1位となった川上賢育さん（伯太町上十年畑）は、「^{たかやす}天気が良すぎて走るには少し暑かったです。前半抑え気味に走って、終盤の勝負で何とか抜いて逃げ切ることができて良かったです」と話しました。

やすぎランニングフェスティバル実行委員会の作野幸憲会長は、「今回で2回目の開催でしたが、天候に恵まれ、昨年よりも多くのランナーに参加していただき大変うれしく思っています。まだまだ規模は小さいですが、地道に少しでも大きい大会にしていきたいと思っています」と語っていました。

①秋晴れのもと、スタートする10kmコースの男女173人のランナー。②5kmコースのゴール手前にある緩やかな上り坂。ランナーは最後の力を振り絞って走り抜きました。

